

On *Comanthosphace sublanceolata* MOORE in Mts. Tanzawa area

Shigeru OHTANI* and Shigetaka SUZUKI**

(with two plates)

丹沢山塊のテンニンソウについて

大谷 茂*・鈴木 重隆**

In the Tanzawa Mountains area there are very many specimens of *Comanthosphace sublanceolata* MOORE. Since 1961 the authors noticed stellate hairs and setas on the under surface of the leaves. They continued to investigate and observe almost all parts of the Tanzawa Mountains with the cooperation of Mr. Kigawa. The authors found two different types in this area. One of them (fig. 2) has erect patented setas and small stellates on the veins of the under surface of the leaves. Another type (fig. 1) has only stellates and no seta on the same parts. The former coincides with *Comanthosphace sublanceolata* S. L. MOORE forma *hakonensis* (KOIDZ.) OKUYAMA. But the author could not find any name which coincide with the latter.

In addition, the author was unable to find the types of *C. lanceolata* MOORE and its forma *barvinerbis* MAKINO in this area.

Comanthosphace sublanceolata (MIQ.) MOORE forma *Kigawae* S. OHTANI et S. SUZUKI
Forma nov.!

C. sublanceolata MOORE, auct Mts. Tanzawa.

C. sublanceolata MOORE forma *barbinervis* MAKINO, auct Mts. Tanzawa.

Venae foliae stellipilae non barbae.

Nom. Jap. Tanzawa Tenninsō, nov.

Hab. Hinokibora, Mts. Tanzawa (leg. S. Kigawa, Sep. 24, 1963 - the type in Herb. Yokosuka City Museum)

摘 要

神奈川県丹沢山塊にはテンニンソウ類が豊富に自生している。著者の一人、大谷はかねてから(1956)丹沢のテンニンソウ類に注意をはらってきた。著者らは1961年頃から丹沢のテンニンソウ類に疑問をいだくようになり以来現地の城川四郎氏の協力を得て全山の調査にのりだし、ここに結論に達したので発表する。

* Yokosuka City Museum, Yokosuka, Japan.

** Yakumo Girls High School, Tokyo, Japan.

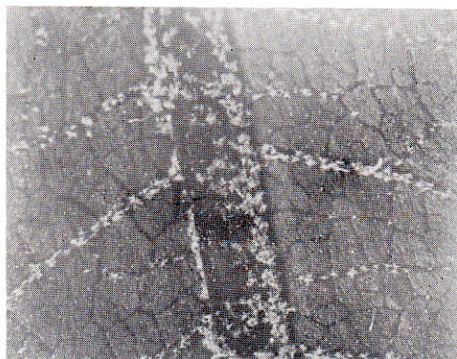
1. 従来丹沢山塊の調査報告にはどれにも同じように *Comanthosphace sublancoolata* (MIQ.) S. L. MOORE テンニンソウと *C. sublancoolata* forma *barbinervis* MAKINO フジテンニンソウとが記載されているが、著者らの調査ではどちらも見あたらなかった。おそらく観察の誤りか、または文献上の連続的誤りであろう。
2. 著者らの調査では、丹沢山塊におけるテンニンソウ類は次の2型であることがわかった。
 - a. 茎と葉裏脈上 特に中脈上に開出粗毛と星状毛を有するもの。
これは Maximowicz 氏の箱根の採集品 (1867) に小泉源一先生が命名発表 (1930) された *C. sublancoolata* forma *hakonensis* (KOIDZ.) OKUYAMA ホソバテンニンソウに一致するものである。
本型はおもに東丹沢地区に多く、著者らの検し得た主要産地は：大山 (1956)、塩水 (1963)、堂平 (1963)、札掛 (1963)、ヤビツ峠 (1956)、新茅の沢 (1963)、蛭ヶ岳 (1963)、姫次 (1960, 1963)、大倉尾根 (1963)、石棚～檜洞 (1963)、大群山 (1960, 1963)、鍋割峠 (1963)、雨山峠 (1963)。
 - b. 茎と葉裏脈上、特に中脈上に星状毛のみを有するもの。
本型はこれまで未発表の新らしいもので、ここに新品種として発表する。和名をタンザワテンニンソウと新称し、また学名の品種小名は永年丹沢山塊の植物調査に従事している城川四郎氏を献名することにした。
本型はおもに西丹沢地区に多く見られるもので、著者らの検し得た主要産地は：箒沢 (1963)、石棚 (1963)、檜洞 (1963)、丹沢山 (1963)、鍋割 (1963)。
3. テンニンソウ類の花軸には何れの種にも星状毛が密布しているので、花軸の星状毛は分類の相異点にはならない。また葉の形その他かなりの変異があるもので、これも区別の要はない。相異点となるのは茎や葉裏脈上に毛がないか、開出毛があるか、開出毛と星状毛を持つか、または星状毛のみがあるかであって、この類を分類するには種とするほどのことはなく、品種として取扱うことが最も妥当であるとおもう。
4. 檜洞で毛の少ないもの、ときに殆んど毛の認められないものがあったが、星状毛は古くなると脱落する性質があることがわかった。したがって若いときから継続して観察する必要がある。星状毛は脱落する場合があっても開出毛は決して脱落することはない、いつまでも残るといことも調査の結果わかった。
5. ホソバテンニンソウの星状毛が脱落したものはフジテンニンソウと誤り易い。またタンザワテンニンソウの星状毛が脱落してくるとテンニンソウと誤認されやすいものである。
6. 丹沢山塊のテンニンソウ類はホソバテンニンソウが大部分をしめ、タンザワテンニンソウのほうが量的に少ない。また西丹沢の山梨県境附近にはフジテンニンソウがでてくる可能性もあるが、今後の調査にまつ。

LITERATURE

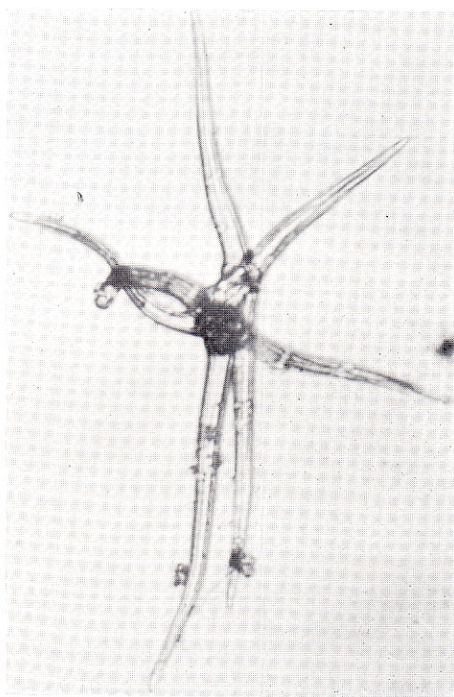
- Hara, H. 1952. Enumeratio Spermatophytarum Japonicarum 1: 200~201.
- Hayashi, Y. 1961, Scientific Researches on Vascular Plants found in the Tanzawa Mountains, Bulletin of the Government Forest Experiment Station 133.
- Koidzumi, G. 1930. Florae Symbolae Orientali-Asiaticae: 14.
- Okuyama, S. 1959. Coloured Illustrations of Wild Plants of Japan 4: 96, Index: 16.



(1)



(2)



(3)

Fig. 1. *Comanthosphace sublanceolata* forma *Kigawae* in Hinokibora Mts. Tanzawa, Kanagawa Prefecture. タンザワテンニンソウ (新称).

1. flowering plant.
2. Only stellates and no seta on the veins of under surface of the leaf blade. enlarged.
3. stellate hair, enlarged.



(1)



(2)

Fig. 2. *Comanthosphace sublanceolata* forma *hakonensis* in Ohmureyama Mts. Tanzawa Kanagawa Prefecture. ホソバテンニンソウ (小泉, 1930).

1. flowering plant.

2. Patented setas and stellate hairs on the veins of under surface of the leaf blade, enlarged.